

# 全社員で東北被災地へ

## エネジ 研修通じ防災意識向上

LPガス販売のエネジ0人の全社員が東日本大震災(浜松市)は、約20

被災地で被災した東北で防

災研修を受ける。予算は約1200万円。6月に1泊2日をかけて甚大な被害を受けた福島県や宮城県を回り、従業員の防災意識を高める。

同社はLPガス販売のほか、太陽光パネルや家庭用蓄電池・蓄電システムも手掛ける。研修を通じて、社員が「災害へ備える大切さ」を学ぶことで防災ビジネスの強化を図る。

東北被災地の研修は10年ぶり2回目。前回は宮城県を訪れた。今回の研修では同県南三陸町に加え、福島県双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問する。藤田源右衛門社長は「従業員に人々の生活への影響力の大きさや責任感を感じてほしい」と話す。

静岡県は南海トラフ巨大地震による甚大な被害が見込まれる。22年9月には台風15号が上陸し、大規模な停電や断水が発生した。自然災害の激甚化で人々の防災意識が高まり、藤田社長は「防災関連ビジネスの売り上げは年々大きくなっていく」と説明する。

2023年(令和5年)5月2日(火) 日本経済新聞